

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501271		
法人名	医療法人社団上田病院		
事業所名	グループホームあいあい 桜ユニット		
所在地	登別市美園町4丁目23-9		
自己評価作成日	H25年7月31日	評価結果市町村受理日	平成25年9月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kanji=true&JgivosyoCd=0173501271-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるように、行事や食事を工夫しています。春は花見や水族館へ出かけ、屋外での食事を楽しみます。夏は町会のお祭りやあいあいでバーベキューに町会や家族にも参加してもらっています。秋はぶどう狩りや運動会。冬は外出の機会が少ないため、屋内での楽しみに力を入れています。(かるた、習字、裁縫など)6月から10月の期間上田病院の大浴場へ行き温泉気分を満喫しています。「もくれんの会」という踊りのボランティアの方が毎月きています。盆踊りなどを一緒に踊り楽しんでいます。傾聴ボランティアで近隣の方が毎週来ています。上田病院託児所から定期的に訪問があり、小さな子供たちとふれあう時間をもっています。母体が上田病院であり、緊急時の診察や治療もスムーズです。点滴も安心してホーム内で受けることができます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年9月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR鷲別駅・郵便局・公園・商店街等に近く、利便性の良い事業所である。地域住民とは散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会行事の参加や事業所行事、避難訓練に近所の人達が参加し積極的に交流している。また、踊り・傾聴等のボランティアや実習生・保育園児の訪問も多く、利用者の楽しみごとになっている。運営母体が医療法人であり、充実した医療体制で利用者を支え、重度化した場合でも住み慣れた事業所で、馴染みの職員と共に穏やかに安心して暮らすことができる環境にある。写真入り事業所便り、『あいあい通信』で行事・職員の異動・来月の予定など全体的な報告をし、個人別の体調・食事・受診・睡眠等は、『月次報告書』で利用者家族に毎月報告している。避難訓練は消防署の協力のもと年2回実施しており、事業所独自に地震・台風・津波等を想定したシミュレーション訓練を、毎月月上旬に行い全職員が危機感を持ち災害に備えている。災害時備蓄品は、自家発電・カセットコンロ・食品・飲料水等や日常使う水はポリタンクに用意している。質の高いケアの実践と共に、恵まれた住環境のなか、個別支援を実践している温かい地域密着型事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境の中で今ある機能を維持し、自分らしく生活が出来るように毎日の申し送りやユニット会議などで話合っています。	全職員は、事業所の理念を記載した理念カードを携帯し、確認しながら実践に向け取り組んでいる。さらに各ユニットの年度目標も設定しリビングに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や救命講習には町会の方にも参加してもらっています。町会の行事(お祭り・文化祭など)には声をかけてもらい入居者さんも参加してもらっています。廃品回収は毎月1回継続しています。	廃品回収の継続参加や、町会の種々の行事に参加しており、ボランティアや実習生の訪問も多く、近隣住民は事業所行事のバーベキューや、避難訓練に参加し日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターなどが主催する講演会や徘徊模擬訓練に町会の方や家族の方にも参加してもらっています。又運営推進会議を通して情報の共有、収集をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行ない運営状況を報告しています。市役所、包括、消防、町会の方などと意見交換を行っています。	運営推進会議には、家族・町会役員・市役所職員・包括支援センター職員・消防署職員等が参加し、活発な意見交換を行い、ケアサービスの質の向上に活かしている。	参加できない家族にも、会議の内容が伝わるように運営推進会議終了後は、利用者家族に議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通して事業所の取り組みや実情を報告しています。毎月入居者の入居状況を報告しています。	疑問や質問等は随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。市役所職員は運営推進会議に出席しており、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2、3ヶ月に1度身体拘束委員会を行い職員にも理解してもらっています。身体拘束を行なう時には事前に家族に説明し同意を得同意書を作成しています。身体拘束は行なっていない。玄関の施錠は夜間のみ行っています。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で必ず行なっている。接遇委員会を設置し職員一人一人の言動などをチェックするシートを作成している。申し送りやユニット会議などでは虐待について学ぶ機会をもちお互いを注意できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を必要とする入居者はいません。成年後見人制度について職員が学ぶ機会は少ないと思います、今後は積極的に学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には家族の方と契約書、重要事項説明書、看取り介護の定義などを読み合わせを行い内容について理解、納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望が寄せられた時にはその内容を運営推進会議、市役所、職員全員に伝え検討し改善できるようにしている。	来所時の会話の中から、希望や要望をくみ取り家族の思いを、運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のユニット会議には施設長、管理者が出席し、職員の意見や提案を聞き反映できるようにしている。申し送り時にも意見などを聞いている。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに年1度の人事考課を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行い施設長と個人面談を行っている。やりがいをもてる様に個々に役割を決めている。資格取得の為に教材を準備し講習会も行なっている。個人の業績に応じた昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では勤続年数に応じて研修会や事例発表会を行っている。法人外での研修には出来るだけ参加をするように声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会や包括センター主催の事例発表会などに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時家族の方と面談を行い本人の様子を出来るだけ詳しく聞いています。入居後は本人の行動、精神面を観察し安心して生活ができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族や紹介してくれる包括センターの方などと連絡を取り合い家族の希望や不安な事を聞いています。入居後もこまめに家族と連絡を取り合い本人の状況を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や包括センターの方からお話を伺い今本人が一番必要としている事をケアプランに反映しその後は本人を観察し評価し必要な事を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の入居者さんの思いを理解するように努め職員間で情報を共有し本人の出来る事はやってみようようにしている。お茶の時には一緒に会話を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは情報を共有できるように面会時には本人の様子を伝えながらコミュニケーションをとり信頼関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は自由に行なっている。外泊時には自宅まで送る事もあります。	家族との墓参りや、友人と商店で買い物等、馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係を職員がよく観察、把握している。テーブル席の配置や座る位置などに気をつけている。レクなどを行なう時には職員が必ず一緒に行い声をかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をする時には受け入れ先の病院の方と十分に連絡を取り合っています。家族から相談があれば応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の望むことなどを聞き意向に沿うように努めている。入居後本人の様子を観察し本人本意にできるようにしている。	センター方式を活用し、家族から得た情報や日頃の行動や表情を基に、個々の思い・希望・意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や包括センターの方から情報をもらいアセスメントを行いこれまでの生活環境や生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人が自分らしく暮らせるように健康面、日常生活面を観察しアセスメントを行いケアプランに反映させて生活をしている。モニタリングを行い本人の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望を聞きながらケアプランを作成している家族は任せますと言う方が多いため本人を観察し職員と話し合い意見を聞きケアプランを作成している。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってケアを行ない個人の介護記録に記入している。変わったことや気が付いた事がある時には特記事項に記録している。申し送りノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族より要望があった時には早急に対応できる体制が出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して市役所、包括、消防、町会、民生員の方に理解を求めている。ボランティアの訪問や避難訓練時には町会の方にも参加をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を聞きながらかかりつけ医での受診を受けられるようにしている。他科を受診する場合は家族と話し合い受診先を決めている。	運営母体が医療法人であり、施設長が看護師であることから、緊急時にはすぐに対応できる体制ができており、利用者や家族にとって安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師なので日常の細かな変化も報告し医師の指示をもらっています。月に2回上田病院から医師、看護師訪問の健康相談を行なっている。必要に応じ医療機関へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時には介護添書を作成して普段の生活の状況を伝えている。入院後も同じケアが受けられるようにしている。退院後は支障なく生活が送れるように情報を頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にグループホームにおける見取りに関する指針を読み合わせ確認をしている。入居後、終末期の覚書を作成し本人や家族の希望する生活を送れるようにしている。	入所時に重度化や終末期について説明をし、その後時期を見て看取りに関する指針に基づいて『終末期における覚書』を交わし、重度化や終末期の方針を医師・職員・家族と共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急時のマニュアルを作成し職員間で共有している。申し送り時などで定期的に緊急時のシュミレーションをおこなっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っています。地震、火災、津波を想定し、日中、夜間の訓練をおこなっています。職員全員が対応できるようにし町会の方にも参加してもらっています。	年2回消防署の協力の下、利用者や地域住民と共に避難訓練を行っており消防署員は、運営推進会議にも出席している。自家発電や、飲料水等の災害時備蓄品も準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や性格を職員が熟知しその人に合った言葉で声かけをしている。人格を尊重しプライバシーに配慮している。	言葉かけには最も注意して、利用者の尊厳を大切にしている。個人記録等も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思決定、表現が出来ない方が多いです。日々の生活の中で本人との関わりを多く持ち観察し本人の思いを汲み取れるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを大切に食事時間を調整している。日常生活も本人のペースに合わせて生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選べる人には着替え時には声をかけ自分で選んでもらっています。入浴後髪の毛を乾かす時など希望をきいて整髪している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合った食事を提供している。本人の嗜好を把握している。一緒に食事の準備をできる方には声をかけて本人の意思を確認して行なう事もあります。	利用者の希望を重視した食事を提供している。職員も共に食卓を囲み、個々の嚥下状況や体調の確認をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分量、食事量、食事の形態を把握しお粥、ミキサー食、トロミなど個人に合わせ提供しています。摂取量が少ない時には栄養補助食品などを提供し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかけ口腔ケアを行なっています。自力でケアできない方が多く側について介助しています。うがいができない方はガーゼを使用し口腔内の清拭を行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況を把握し時間毎にトイレへ誘導しています。排泄の仕方が分からなくなっている方もいるので一つずつ声をかけ介助しています。失敗の少ない方には本人と話し合い布パンツに戻し対応しています。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが5カ所あり、使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行っています。ヨーグルト、さつま芋など食物繊維の多い食品を継続的に提供しています。主食は麦ご飯、野菜ジュースは毎日提供し適度な運動を心がけています。個人に合わせた下剤、座薬の調整を医師から指示をうけ調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望のある時には入浴しています。自分で意思決定の出来ない方は声をかけて入浴してもらっています。入浴拒否する方には日を改め声かけしています。	本人の希望する曜日や時間に入浴できるよう支援している。必要に応じシャワー浴や清拭にも対応している。月に2度、上田病院の大浴場に行き、温泉気分で入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の身体状況に合わせて睡眠をとってもらっています。日中ソファでウトウト眠っている時には居室やソファベットで横になってもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては用法や用量などファイルしている。服薬は医師の指示を受け服薬しています。定期薬を服用するときには職員が名前、日付を確認している。新たな症状が出た時には医師の指示を受け服薬している。副作用等は職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った楽しみを見つけ行なっています。(習字、裁縫、塗り絵、貼り絵など)全員で行うことが難しくなってきた為、2、3名ずつ行なっています。(風船バレー、体操など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に全て応えることは難しいです。希望も少ないので天気の良い日にはこちらから散歩などの声かけをする「行きたい」と言うことがあり近所を散歩したりしています。季節毎にドライブへ出かけています。家族が同行することもあります。地域の方の協力での外出はありません。	前庭に出て、お茶を飲みながらの外気浴や、個々の体調や希望に合わせた散歩や買い物などで、外へ出る機会を奨めるなど工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事を理解している方は2名います。1名は小銭を所持していますがお金を使いたいとの思いはないようです。事務所で預っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと訴えのある時には職員がダイヤルし本人に代わっています。家族から手紙がきた時には職員が声をかけ手伝ったり代筆をして書いた事があります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、トイレ、お風呂場も広く車椅子も使用できます。リビングの窓も大きく日差しが強さには気をつけています。換気にも注意し風通しを良くしています。季節の花を飾ったり、壁飾りを作って飾ったりし季節感を感じてもらっています。	事業所は2階建となっており、それぞれのユニットのリビングにコーナーを設け、昔の暮らしを思い出す茶たんすや日用品等が置かれている。行事写真や、はり絵などで季節に応じて変化を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る席は決まっていますが自由に移動できるようにしています。ソファに並んで座りおしゃべりを楽しんだりしています、畳のスペースがあり自由に座ったり横になったりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と話し合い馴染みのタンスなどを持ってきてもらい安心できる部屋にできるようにしています。日中はほとんどの方がリビングで過ごしています。	居室には、自宅で使い慣れた家具や日用品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中でその人の出来ることを把握し一緒に行なっています。ユニット内では自由に安全に生活できるように職員が見守りを行なっています。		